

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870100765
法人名	株式会社クロスサービス
事業所名	グループホーム風花
所在地	松山市来住町1057-1
自己評価作成日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者主体の生活・その人らしさが支援出来る様、『私の手帳』や地域支援マップの作成を行ない、利用者の生活の質向上に日々努めている。 ・地域との関係がより広まったり、深まりがます様、“やつで会”や“秋の集い”を通して、気軽にホームを訪ねたり、相談出来る関係作りを行なっている。また、地域行事や“寿会”にも積極的に参加し、一緒に楽しい時間を過ごしている。 ・法人内の事業所と合同で勉強会や研修を行なったり、委員会活動を通して、職員一人一人が生き生きと働けると共に、スキルの向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●地元からの利用者が多く、散歩時や「やつで会」の折には、顔なじみの方と会えるような機会にもなっている。聞き取りが可能な方には、「私の支援マップ」を作成し、「馴染みの人、会いたい人、支えたい人」等の把握に取り組みされている。併設デイサービスに通っておられた利用者には、時々、デイサービスの利用者や職員に会いに行けるよう支援されており、利用者同士が声をかけ合い喜ばれるようだ。「毎朝のヨーグルト」「朝はトースト」「韓国ドラマを見るのが趣味」等、利用者一人ひとりの習慣や趣味も続けられるよう支援されている。今年度は、ユニット間の交流にも力を入れておられ、毎月15日にはユニット合同で「お茶会」や「歌会」を催されている。 ●家事等、生活の中で職員は、利用者のできることを行えるような場面を意図的に作っておられ、できたことについては感謝やお礼の言葉を伝えるようにされている。職員は、「利用者主体であることを忘れず、尊厳を持って、馴れ馴れしくならない」ことを心がけて支援されており、「利用者がトイレやお風呂を使用する際には必ずノックをする」ことや、「利用者の名前を出して職員同士で話をしない」よう気を付けておられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの ○ 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと ○ 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目：11, 12)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム風花

(ユニット名) 2F 花

記入者(管理者)

氏名 丸山 美佳

評価完了日 25年 6月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの役割や、グループホームのあり方等、職員全員で再確認し合ったり、当事業所の基本理念を振り返る勉強会を行い、理念作りに向け職員全員で共有を図っている。	この一年、職員の入れ替わりがあったことから、管理者は、あらためて、「地域密着型サービス」について理解を深めるような勉強会を行い、「私たちは何を大切に支援すべきか」ということを明確にした後、理念作りに取り組みたいと考えておられた。
			(外部評価) 法人理念を事業所理念として掲げておられるが、今後、各ユニットごとに理念を作ることを予定されている。すべての職員で、「事業所が大切にしていること」「頑張っていること」について話し合い、今年度の目標を、「利用者一人一人の馴染みの暮らしや習慣が継続できるホームになる」ことに決められた。管理者と各ユニットのリーダーで、半期ごとに目標達成状況について話し合い、実践につなげておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の行事(盆踊り・運動会)に参加したり、寿会(老人会)へも参加する事で地域との交流を図っている。また、日常的に地域に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、公園でおしゃべりしたり等気軽な交流がある。近所の保育園からも「いつでも寄って下さい」と言って頂き、散歩の際に立ち寄りしたり、行事に参加している。(夕涼み会・運動会)三年目を迎える『やつで会』では、参加者より「毎回楽しみにしている」との声も聞かれ、顔馴染みの地域の方が増えてきている。	毎年、事業所主催で、「秋の集い」を行っておられ、法人内介護事業所の利用者、地域の方へ案内をして、100名以上の方が参加されている。地元の「獅子舞保存会」が舞いを披露してくださったり、ご家族の「ドッグショー」や「模擬店」も出して交流を楽しまれた。毎月開催する「やつで会」は、利用者と地域の方のふれあいという機会にもなっており、自己紹介やクイズ、体操等を一緒に楽しく行なっておられ、回数を重ねるごとに関係も深まっている。地域の参加者からは、「お友達が出来てうれしい」との感想もあるようだ。又、散歩時、地域の方から「やつで会の日」を確認する声をかけてくださるようなこともあり、管理者は、「やつで会」が地域に根付いていることを感じておられた。
			(外部評価) 利用者と共に地域行事に参加したり、地域運営推進会議を通して認知症への理解を深めてもらっている。また地域包括支援センターが行なっている『ケアネット集会』にも積極的に参加し、普段お会いする機会のない方々との交流にて、自ホームの取り組みを知って頂いたり・興味・関心を持って頂く機会場の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者と共に地域行事に参加したり、地域運営推進会議を通して認知症への理解を深めてもらっている。また地域包括支援センターが行なっている『ケアネット集会』にも積極的に参加し、普段お会いする機会のない方々との交流にて、自ホームの取り組みを知って頂いたり・興味・関心を持って頂く機会場の場となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度、町内会長・副会長・寿会会長・民生委員・家族代表・ボランティア・近隣の保育園の職員・地域包括支援センター職員・市介護保険課等に参加して頂き開催している。テーマに沿って話しあい・意見交換を進めながら、参加者との交流を深めている。また会には必ず地域風花便りをお配りし、普段の利用者の様子や行事等もお伝えしている。年に一回は避難訓練と連動して開催し、地域や家族の方と災害に対する相互の協力体制強化の機会にもなっている。	
			(外部評価) 今年度から、併設に新しく開設された小規模多機能型事業所と合同で会議を開催されている。会議では、事業所の状況報告のほか、「秋の集い」の出し物や事業所の畑の世話等、手をお借りしたいような事等について話し合われている。「来住町ご近所マップ」作り時には、メンバーから、「ここには、こんな店がある」「小野川は昔は氾濫が多かった」等、地域の情報を聞き取り作られた。近所の保育園の方からは、「いつでも遊びに来てください」と言っていたき、散歩時に立ち寄りたりされている。テーマに応じて、消防署や外部評価機関等へも案内をして参加を呼び掛けておられる。今後は、会議メンバーの要望等を探り入れ「年間の会議テーマ」を決めて、会議をすすめていきたいと考えておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には毎回必ず地域包括支援センターの職員さんや介護保険課の方が出席して下さっている。また地域包括が主催する勉強会にも積極的に参加し、今年度は看取りに関する取組みを発表・報告する機会もあった。	
			(外部評価) 玄関脇には高齢者見守り隊のシールを貼り、地域の高齢者の見守りをされたり、事業所でもひとりで出かける可能性のある利用者のリストを市と地域包括支援センターの両方に提出して、行方不明時には捜索の協力をお願いされている。地区の地域包括支援センターは、勉強会やセミナーを積極的に開催されており、職員が参加して勉強されたり、管理者は、事業所の取組み等を発表されている。事業所は、中学生の職場体験を受け入れておられるが、管理者は、年々、介護職への希望が減ってきているのではないかと感じておられる。今後は、中学校の先生等にも運営推進会議に参加していただけるよう働きかけ、介護事業所のことを知ってもらいたいと考えておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中(7時～21時)の間は玄関にカギをかけておらず、自由に出入り出来たり、地域・家族の方々も行き来しやすい環境にしてある。ベッド柵を使用する場合は、使用に至った経緯と状況・理由を家族に説明し同意を頂くようにしている。申し送り時を利用して、もしかして拘束にならないかという気付きを伝えあい検討している。	
			(外部評価) ひとりで出かける可能性のある利用者もおられ、又、事業所の玄関は、車の往来が頻繁にある道路に面していることから、あらためて、職員で利用者の自由と安全について話し合う機会を設けられた。職員からは、「呼び止めるから出て行きたいのでは?」「事業所に居たくない思いを知ろう」等、意見が出され、事業所全体で、「後ろから不意に声をかけたり、『待って』『どこ行くの』等の言葉かけはしない。利用者の気持ちを考えよう」と、意思統一された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不適切な声掛けや行動がないか(ため口・命令口調・制止・抑制)職員同士で声を掛け合い気をつけ合ったり、ミーティング時に振り返りを行なっている。また社内研修で『高齢者虐待』のコマがあり、理解を深め防止に努める機会が設けてある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、理解するまでは至っていない。社内勉強会での企画を考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は時間をかけ丁寧に説明している。特に、預り金や重度化・看取りについての対応指針に関しては家族からの質問も多いので、家族の意向も重ねて聞き取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族とは来所時にお話しする時間を持ち、要望や意見を聞き取っている。代表者と直接話がしたいとの希望があった場合も取り次いでいる。家族が主体的に開催する家族会では、運営内容等に関する意見交換が行われ、ホームに報告して頂いている。運営推進会議の場では、利用者・家族の代表が必ず参加し、何でも言ってもらえるような会の内容・雰囲気作りに努めている。	
			(外部評価) 職員は、「あいさつをしっかり行う」「マナーを守る」等して、ご家族との信頼関係作りに取り組まれている。調査訪問時に来訪されたご家族は、「職員は気さくで話しやすい」と話してくださった。ご家族来訪時には、普段の生活の様子の写真をみてもらったり、利用者との会話や、やり取りの内容や交えながら近況報告を行っておられる。又、遠方に住むご家族には、電子メールや電話、写真、さらに、管理者が毎月手紙を書き送付されている。「家族会」は、年2回以上行っておられ、前回は15名ほどのご家族が参加された。管理者から新しい利用者の紹介や行事の説明等をされた後、ご家族の方のみで話す時間を設けておられる。「職員の入退職を教えてください」「外出させてほしい」等、率直な意見が出されており、事業所では、「入退職者を便りに載せる」等して、ご家族からの意見を採り入れながら取り組まれている。	事業所では、「新しく入居された方のご家族や、遠方に住むご家族の意向の把握について、今後さらに取り組んでいきたい」と考えておられる。今後もさらに、ご家族等と活動するような機会作り等を重ね、利用する側である利用者やご家族の声を大切にしたい取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 人事考課の面談の際、職員一人一人の思いや健康状態など丁寧に聞き取りしている。意欲向上に向けた助言だけでなく、労務改善や気分転換につながるアドバイスもしている。職員の日々の気付きやケアの疑問・悩みは、リーダーや申し送りノートを通して遠慮なく伝えられるように配慮している。	
			(外部評価) 今回のサービス評価実施にあたって、事前に法人理事が講師となり、各評価項目のポイントについて勉強会を行われた。その後、介護経験を積んだ職員が個々に自己評価を行い、「外部評価委員」の職員がまとめられた。勉強会は、ユニットリーダーを中心にテーマを決めて行われており、職員が自ら学び発表する等、工夫して取り組まれている。又、ミーティング等では、職員から「グリーンカーテンを作ってみたい」「フロアにお茶のできる畳コーナーを作って差し上げたい」等の提案があり、実際に作ってみられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が意欲を持って働ける様に、OJTを日々行なうと共に、定期的に業務・職務評価を実施している。また職員一人一人の個性や得意毎がケアに生かせ、且つそれがやりがいにつながるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内・外の研修や勉強会への参加を勧めたり、働きかけをおこなっている。社内研修は職員の勤務年数やスキルに応じて年数回開催しており、職員は他事業所の職員と共に自己研さんが図れる仕組みとなっている。また定期的に職務・業務評価を実施し、そのスキルや意欲の見極めを行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市や協会の活動に適時参加し、交流を深めている。また同事業所の他のGH職員と合同の勉強会や研修を企画し、お互いに学び合う機会も設けている。他職員との関わりの中で、お互いの思いや気付きを積極的に交換し合う事でケアの質の向上が図れると共に、モチベーションアップにもつながっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前には利用者の状況・状態・要望を聞き取る共に、利用者が安心してサービスを開始出来る様、誠実な対応を心がけている。聞き取った情報は職員ミーティングにて、全員で共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が求めている事、不安を思っている事などをしっかりと聞き取ると共に、入所に至るまでのプロセスや家族でしか分からない悩み・葛藤を受け止めるようにしている。また、家族の悩みや不安は職員とも共有し、来所時には話しやすい関係作りにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時・入居時には、本人と家族の思いや状況をしっかりと聞きとり受け入れる姿勢を持つようにしている。また多様なサービスと柔軟な対応を説明し、本人と家族の意向とのすり合わせを時間をかけて行なっている。しかし、出来る事と出来ない事はしっかりと見極め事業所の支援内容を把握して頂く努力もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る力や得意毎を見極めながら、家事や畑仕事をお願いしている。また、季節の習わしやその土地の風習など尋ねて教えて頂く事もある。些細な力でも見落とさず支援出来る様、箸を並べてもらう・二階へお使いへ行く(車椅子の利用者)など、なるべく一緒に行なえる事を見つけている。また感謝の気持ちは忘れず伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	(自己評価) 家族の状況に応じて、ファクスや電話・手紙を活用して利用者の状況や状態をお伝えしている。また来所時にはホームで撮った写真を見ながら近況をお伝えしたり、一緒におやつを頂くなど、共に過ごす時間を大切にしている。出来る場合には、受診の付き添いをお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容院やお店に行ったり、昔からの馴染みの方々と会う機会を設けている。またかかりつけの鍼灸士が定期的に訪問してくれている利用者もいる。地域資源マップの作成を利用者と一緒に行ない、人・物・場所など本人を取り巻く資源を探っている。 (外部評価) 地元からの利用者が多く、散歩時や「やつで会」の折には、顔なじみの方と会えるような機会にもなっている。聞き取りが可能な方には、「私の支援マップ」を作成し、「馴染みの人、会いたい人、支えたい人」等の把握に取り組まれている。併設デイサービスに通っておられた利用者には、時々、デイサービスの利用者や職員に会いに行けるよう支援されており、利用者同士が声をかけ合い、喜ばれるようだ。「毎朝のヨーグルト」「朝はトースト」「韓国ドラマを見るのが趣味」等、利用者一人ひとりの習慣や趣味も続けられるよう支援されている。今年度は、ユニット間の交流にも力を入れておられ、毎月15日にはユニット合同で「お茶会」や「歌会」を催されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がお互いを気遣ったり、助け合ったりしている場面ではさりげなく見守りしている。話が通じない・トラブルになりそうな時にはお互いの思いや意を仲立ちして伝える等、意思疎通がうまく図れるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなられて退去された方の家族が時々遊びに来て下さる事がある。またホームを紹介して下さったケースもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の言葉や表情から思いや意向をさぐっている。またそのツールとして、センター方式のシートや「私の手帳」を活用し、職員全員が聞き取った事・気付いた事を記載しアセスメントしている。常に本人視点に立ち返れる様、ミーティング時には「ひもときシート」も活用し、本人はどう思っているのか?どうしたいのか?探るように努めている。 (外部評価) センター方式のアセスメントシートや「私の手帳」のほかに、事業所独自に作成した「個人別記録」を用いて利用者の行動や原因、背景、思いや願いを探るために24時間の記録を残しておられる。又、入居時に、「私の支援マップ」にもとづき聞き取りを行い、その後も情報を追加して、思いや意向の把握に努めておられる。	利用者、職員の入れ替わり等もあって、管理者は、「利用者個々の思いや意向の把握が十分でない」と感じておられる。事業所では、アセスメントの仕組み等も作られており、すべての職員で情報収集に取り組み、今後さらに、利用者「本人本位のケア」を目指していきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用開始にあたって各関係者から情報を聞き取ったり、「私の手帳」を書いて頂いている。また家族にはアルバムや馴染みの品々を持って来て頂き、それにつながるエピソードや思い出を聞き取ったり、利用者も交えお話しする機会を持っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人別記録は24時間時系列になっており、その時その場面の利用者の言葉や思いが記録されている。食事の場面では、利用者本人に個人別記録へ感想を記載してもらおう等、生の声・思いが理解出来るようにしている。また、センター方式のシートも活用し、職員間で情報を共有するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	センタ－方式の五つの視点のシートや「私の手帳」を活用しアセスメントを行い、そこに家族から聞き取った要望や意見を取り入れ、反映出来るようなケアプランを作成している。また本人にも暮らしの意向や思いを聞き取る機会を持ち、ケアプランに落とすようにしている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	個別に24時間の記録を用意し、本人の状態や様子・言葉やエピソードを記録している。また、そこから本人の思いや意向が拾い上げられる様、職員の気づきや工夫点も記載するようにしている。申し送りは職員同士が気づきを交換し合える場として活用し、日々のケアのヒントが生まれている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	地域の老人会の日帰り旅行に出掛けたり、選挙に行きたい利用者の支援をおこなっている。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	支援マップや「私の手帳」を使用して、本人を取り巻く人・物・場所や馴染みの関係についての把握に努めている。その情報から行きつけの美容院に定期的に通ったり、馴染みの化粧品店から化粧品が届けられたり、本人の馴染みの暮らしの継続の支援が出来ている。しかし新しい利用者の地域資源はまだまだ理解出来ていない。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時にかかりつけ医の有無を確認し、本人や家族の希望や意向に添って医師・医療機関を決めてもらっている。また、病気やその症状によってはかかりつけ医から紹介状を頂き、専門医に診てもらえる体制をとっている。受診や通院の際家族が同行出来ない場合は職員が対応し、診察内容の報告をおこなっている。	
			(外部評価) 定期受診時には、前回の受診から今回までの健康状態や利用者の状態の経過を記した書類を用意して、FAX送信や持参して医療機関に情報提供されている。協力医や訪問看護事業所は、24時間いつでも連絡可能で、利用者の状況によっては、夜間も駆けつけてくれるようになっている。週1回は、訪問看護事業所から看護師が健康チェックに来てくれ、月2回は、協力医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護ステーションと医療連携し、定期的な健康チェックと1日24時間の相談・対応の体制をつくっている。職員は、利用者の日々の状態で気がかりな事や疑問などを、相談したり、助言してもらっている。月に1度、医療連携会議をおこなっており、普段なかなか聞けない事や重度の方への介護方法などアドバイスしてもらっている。	
			(外部評価) 入退院時には付き添ったり、定期的に病院を訪問し、利用者の状態を把握・早期退院に向けた話し合いを医療関係者と持っている。また、医師や看護師にも適時相談・報告しながらアドバイスしてもらったり、退院時のカンファレンスにも同席してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入退院時には付き添ったり、定期的に病院を訪問し、利用者の状態を把握・早期退院に向けた話し合いを医療関係者と持っている。また、医師や看護師にも適時相談・報告しながらアドバイスしてもらったり、退院時のカンファレンスにも同席してもらっている。	
			(外部評価) 契約時に重度化・看取りの方針について説明し、本人・家族の意向を聞き取るようにしている。また状態の変化があった場合は速やかに家族にも報告し、今後のケアに向けた相互間の意思の疎通を図っている。終末期は、本人の希望を最優先にしながらも、家族の希望や思いも聞き取り、各関係者と連携を図りながら最期までその人らしく暮らし続けられる様支援している。職員は、利用者の今までの暮らしぶりやその人らしさを振り返り、最期まで尊厳を大切にケアのあり方を話し合う機会を設けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化・看取りの方針について説明し、本人・家族の意向を聞き取るようにしている。また状態の変化があった場合は速やかに家族にも報告し、今後のケアに向けた相互間の意思の疎通を図っている。終末期は、本人の希望を最優先にしながらも、家族の希望や思いも聞き取り、各関係者と連携を図りながら最期までその人らしく暮らし続けられる様支援している。職員は、利用者の今までの暮らしぶりやその人らしさを振り返り、最期まで尊厳を大切にケアのあり方を話し合う機会を設けている。	
			(外部評価) 昨年度、事業所では7名の利用者の看取りを、協力医、訪問看護事業所、ご家族と協力し合って支援され、さらに、地域包括支援センター主催の勉強会時には、看取り支援の事例について発表された。おしゃれだった利用者には、最期までご自分で洋服を選んで日中過ごせるよう支援されたり、「家に帰りたい」と希望する利用者には、娘さんのお宅にお連れする機会を作られた。終末期のあり方について、ご家族は点滴することを望まれるが、利用者は「したくない」と言われるような場合や、職員は、「一口でも食べてほしい」が、利用者は、「食べたくない」場合等、意向や希望のずれもあり、管理者はその都度、ご家族や職員と話し合い、取り組まれた。管理者は、利用者の看取りを複数経験され、ご家族へも早い段階から看取りの事例等を交えてお話ししたり、希望を聞く機会を作ることの大切さを感じられた。今後は、職員の勉強会等も重ねていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応マニュアルを作成し、全ての職員が応急手当や初期対応が出来るよう研修したり、訓練している。また研修時にはAEDやレスポの使用方法も組み込まれている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署や地域の方の参加のもと避難訓練を行なっている。災害の種類や時間・場所も訓練の度設定を変えている。また実際の避難方法を消防署の方からレクチャー頂き、いざという時に慌てる事のない様繰り返し訓練している。(簡易担架の作り方)災害グッズについては都度点検を行っている。運営推進会議や家族会でも議題にし、相互間で協力し合える体勢を整えている。 (外部評価) 地域の方との合同避難訓練も実施しておられ、地域の方と簡易担架を作って救助するような訓練も行われた。事業所周辺は、「比較的安全な地域」とのことであるが、管理者は、南海地震に備えて地震想定訓練も重ねて行こうと考えておられた。事業所の建物は、耐震構造で災害時には、事業所が避難場所としての役割を担えることを、運営推進会議時に地域の方に伝えておられる。備蓄や防災ずきん等も利用者分以外に少しではあるが、地域の方の分も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いや名前の呼び方がなれなれしくならない様、職員間で声を掛け合ったり、研修や勉強会でも議題にしている。また排泄の声かけや確認時は、職員間で統一した言葉を決め、本人・他者へも気遣いを怠らないようにしている。トイレの座位時には下半身にバスタオルをかけて、羞恥心に配慮している。 (外部評価) 家事等、生活の中で職員は、利用者のできることを行えるような場面を意図的に作っておられ、できたことについては感謝やお礼の言葉を伝えるようにされている。職員は、「利用者主体であることを忘れず、尊厳を持って、馴れ馴れしくならない」ことを心がけて支援されており、「利用者がトイレやお風呂を使用する際には必ずノックをする」ことや、「利用者の名前を出して職員同士で話をしない」よう、気を付けておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人が決めたり、選らんだり出来るよう選択出来る声掛けや場面作りに配慮している。また不意に声をかけたり、行動をさげざたり止めたりしない様、利用者の言動の先にある思いに目が向けられるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人のペースに合わせた生活が送れるように努めているが、職員主導や重度の方のケアが時に先送りになってしまう事がある。常に希望の聞き取りや、利用者の声を大切にしていける努力をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人のこだわりや培ってきたスタイルや好みを大切にしながら、更衣の際は一緒に服を選ぶようにしている。毎朝かさかさ化粧をされる利用者もいる。また洗濯の方法や回数も利用者のこだわりを聞きとりながら、希望によってはクリーニングに出すなどしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に冷蔵庫の中身を見てメニューを考えたり、食べたいメニューの聞き取りを行なっている。下ごしらえや盛り付けは、皆が集うフロア食卓で行なう事もあり、直接関わる事が出来ない利用者にも匂いや、食べたいという意欲を感じて頂けるようにしている。立位保持は難しいが、料理が得意な利用者には電気調理器を用意し、献立の一品を下ごしらえから盛り付けまで行なって頂けるようにしている。	
			(外部評価) 事業所の食事は、「利用者と一緒にメニューを決める」「食べたいところで食べたい時間に食べていただく」「食材に触っていただく」ことにこだわり、手作りをされている。主な食材は配達してもらうが、旬のものや乾物はスーパーへ利用者と買い出しに行かされている。事業所の畑で採れたきゅうりやネギを利用することもある。利用者は、冷蔵庫の中を見ながら、「〇〇と〇〇が作れるよ」と提案されたり、味付けについてアドバイス等もされる。調査訪問時は、お米を研いで、「ちょっと水の加減を見て」と、職員を呼ばれたり、ネギを細かく切っておられる利用者が見られた。一緒に昼食を食べられたご家族もおられ、「この食事はおいしいでしょう？いろいろな食材が食べられて、年寄のことをよく考えてくれている」と感想を話してくださった。又、利用者も「ほんとおいしいね」と話しながら食事をされていた。皆より少し遅れて居間に出て来られて、食事を始める方もおられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量はチェック表に記載し、お一人お一人の状態把握に努めている。また、その個々の状態によって刻み食やお粥・トロミ食を用意している。利用者自身でご飯をついたり、時におかわり出来る声掛けも行ない、食べる量が選択出来る配慮をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、自分で磨ける方には声掛けを、困難な方には介助を行いながら口の中の汚れや臭いが生じない様、口腔内の清潔が保てるようにしている。義歯は、夜間消毒洗浄を行い清潔を保っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を活用し、お一人お一人のタイミングを見計らって声掛け・誘導している。また排泄行為のみに目を向けるのではなく、衣服の上げ下げや拭きとり行為等、出来る力を生かした支援を心がけている。オムツ発注担当職員が個々のパターンやオムツ量を適時見直し、布パンツへの移行や量削減の提案を行い、職員全員の意識を高めている。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表は、利用者全員分を作成しておられる。一日中紙パンツを使用していた利用者2名について、チェック表と日々の観察にもとづき、日中のみ布パンツで過ごせるよう、取り組みを始められている。又、便秘がちな利用者は、ご家族から「昔からみかんを食べると便がゆるくなる」ことを教えてもらい、ケアに採り入れながら便秘しないようなケアに取り組まれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 緩下剤に頼る一方ではなく、オリゴ糖や食物繊維のおおい食材をメニューに取り入れるなどしている。また適度な運動や腹部マッサージも取り入れ、便秘の予防や改善を図っている。日々の申し送りに排便チェック表を活用し、便の量や状態を記載する事で、本人の健康状態も把握出来るようにしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴間隔の長い方から声をかけ入浴してもらっている。無理強いはしないが、入浴剤を使う・一緒に着替えを準備するなど気持ち良く入れる工夫も行なっている。入浴前には必ずバイタル測定を行い、状態の把握に努めている。</p> <p>(外部評価) 入浴時間や曜日は決めず、「利用者が入浴したいとき」に合わせ支援されている。毎日入浴される方もおられる。車いすを使用する利用者には、浴槽で温まれるよう職員が2人で介助をされている。入浴を嫌がる方には、他の利用者に声かけをお願いしたり、入浴剤を使ったり、「お風呂から出たら〇〇を飲みましょう」と、お誘いする等して入浴につながるよう支援されている。居室にご自分専用のシャンプーや石鹸を用意している方もみられた。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 寝具は個々の状態や好みを考慮しており、室温や湿度・明かりにも留意している。日中の休息時には、足を上げて楽な姿勢をとってもらったり、手足や肩などマッサージしている。夕食後からはフロアの明かりを少し落としリラックス出来るようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋ファイルは都度更新している。職員は必ず目を通すようにしており、服薬内容や効能・副作用にも留意している。飲み終わった袋も一度回収し、飲み忘れがないが再度確認してから破棄するようにし、何重ものチェックをしている。服薬前には、職員が必ず2人で確認し、誤薬や飲み忘れが無い様気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の家事は、利用者同士が出来るところを分担したり、声掛けあいながら行なっている。また、畑仕事が好きな利用者や季節の草花や野菜を植えたり、水をあげたりしている。唄が得意な利用者に、十八番の唄を皆さんの前で披露して頂く事もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 特定の利用者になりがちであるが、一緒に回覧板を回したり、犬の散歩に出掛けたり、近所のお寺にお参りしている。また、利用者の声・希望から花見やイチゴ狩り・梅まつり・外食など、普段なかなか行けない場所やイベントにも出掛けている。 (外部評価) テレビのコマーシャルや新聞のチラシ等から、「〇〇が食べたい」と利用者が希望された時をきっかけに、外出先を決めておられる。地域の老人会の日帰り旅行には、利用者4～5名と職員と一緒に参加された。又、行きたい場所を把握しづらい利用者には、回覧板を回してもらったり、「やつで会」の案内を近くの保育園に持参していただけるようお願いされると、快く受けてくださるようだ。「地域資源マップ」の作成により、地域の川、橋、神社、お店等の場所や昔のこの情報をまとめる中で、地域に温泉が多いことが分かり、出かけてみることを検討されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の承諾もと利用者と一緒に買い物へ行き、買いたい物を選んで買ったり、代金を払ったりの支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があればいつでも電話が出来るようにしている。家族と定期的に手紙のやりとりをしている利用者もいる。また、ファクスやメールを送って下さる家族もいる。利用者と一緒に返事のお手紙をファクスで送ったり、お礼の電話をかけたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアや玄関先には利用者が生けた花が飾られている。南側の畑には季節の野菜や花・木が植えられている。フロアの照明は全て間接照明となっており、ほのかでやさしい明かりである。またフロアの壁には季節の装飾が飾られている。</p> <p>(外部評価) 1階ユニットでは、飼犬のはなちゃんが来客を出迎えてくれたりする。玄関や居間には、利用者が活けてくださった百合やヒマワリ、アスター等を飾っておられた。食事中、ラジオをかけているユニットもあるが、なるべく居間では音楽をかけることは控え、洗濯や台所からの音等の生活音が聞こえるようにされている。居間から廊下が放射状に配置されており、利用者が「どこにおるかわからん」と混乱する様子がみられたため、職員は、利用者と一緒に居室用の表札を作って、居室の場所を利用者と確認されている。以前は、歌がお好きな方が多く、歌を歌ったり、一日1回はリハビリ体操を行っておられたが、最近を行うことは少ないようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 広い廊下の端には、一人で気ままに過ごせる様、一人がけのソファやイスを置いたり、共有空間は食卓とリビングに住み分けしている。また玄関やホール・南側の軒先にもイスが置かれており、気ままにくつろいだり、一人になる事が出来る。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みのタンスや化粧台、寝具などの品々が持ち込まれていたり、家族から送られた写真や花・絵などが飾られている。また、洋間であっても今までの生活様式を考慮し、ユニット畳みを敷いて布団で休んで頂くなどしている。</p> <p>(外部評価) 畳の部屋にベッドを置いたり、フローリング床にユニット畳を敷く等して、個々の希望や状態に応じてしつらえておられる。入居時に、馴染みのものを持ち込んでもらえるよう説明をされており、ご家族の写真やぬいぐるみ、自作の人形や絵画を飾っておられる部屋もみられた。枕や腹巻等、馴染んでるものを持ち込まれる方もいる。職員は、利用者の年代や事業所での様子を観察して、ジャズやフォークのCDを聞けるようにされたり、起き上がった時の動線を考えて、「足が引っ掛からないか」「ものが落ちないか」等、安全を考えた、整理棚の配置を工夫している居室もみられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレの戸は赤色で統一しており、水洗レバーに張り紙をしている。各居室のドアには、利用者が思い思いの表札を作り掲げている。ミニキッチンも備え付けてあり、利用者が自由に洗い物をしたり、下ごしらえが出来るようになっている。</p>	